

生きて、燦々

2025. 11. 21

「生きて、燦々」これは何か。歌のタイトルである。テレビで放映されているアニメ「キングダム」第6シリーズのオープニング曲である。このタイトルに目がいった。それはなぜか。「燦々」だからである。

現在は、毎日のように「園長通信～こころ～」を出している。以前は、「校長室だより～燦燦～」を出していた。5年にわたり、1000号まで出した。したがって、「燦燦」には、それなりの愛着も思い入れもある。

歌のタイトルで「燦燦」というと、やはり美空ひばりさんの「愛燦燦」が出てくる。校長室だより「燦燦」と名付けたのも、プロのオペラ歌手の方が歌う「愛燦燦」を聞いたのがきっかけとなっている。

燦々が歌のタイトルになるのは珍しい。歌うのは、いきものがかりである。いきものがかりといえば、私にとっての一番の名曲は「YELL」となる。合唱コンクールの課題曲だった。中学校の合唱部が歌う「YELL」を聞いたことがある。それも、全国合唱コンクールで上位に入賞するような中学校の合唱部だった。鳥肌が立った。感動で涙が出てきた。それ以来私にとって「YELL」は特別な曲となった。

そのいきものがかりが、大好きなキングダムの主題歌を歌うのである。それもタイトルが「燦々」ときた。うれしい。問題は、このキングダムである。なかなか進まない。テレビでは第6シリーズだが、コミック本は77巻まで出ており、もっと先の話になっている。そして、最新話となると、当然もっともっと先の話となる。さらには、映画となると、一気に戻る。

同じキングダムなのだが、話が先に進んだり、戻ったりするわけである。いったい、どの戦いだったのか。誰がどうしたのか。復習しないと混乱してくる。それでも、一つだけ言えることがある。いずれもおもしろい。それがキングダムの魅力であろう。

「生きて、燦々」には、「、」が入っている。これもそう多くはないだろう。「校長室だより～燦燦～」1000号から100を選び抜き、本にした。タイトルは「人生は、燦燦と」である。「、」が入っている。なんだかシンパシーを感じる。「、」を入れるだけで印象も意味合いも違ってくる。

キングダムのテレビアニメは、いつもお休みが入る。第6シリーズが終わると、すぐに第7シリーズにいつてほしい。ところが、中断してしまう。仕方がないことではある。その間は、コミック本や映画のほうを楽しむことにしたい。